

平成30年度 文京区立明化小学校 授業改善推進プラン

第5学年

「児童の実態」…関心・意欲・態度、思考・表現、技能、知識・理解等から選んで実態をお書きください。

「指導のめあて」…実態に照らして、身に付けさせたい力を「指導のめあて」にしてください。

「具体的な授業改善の方法」…「指導のめあて」を達成させるための、具体的な授業改善の方法をお書きください。

	児童の実態	指導のめあて	具体的な授業改善の方法	2学期評価	3学期評価
国語	<p>○自分の伝えたい考えを整理してポスターにまとめたり、人前で話したりするなど、表現することを得意としている児童は多い。しかし、大切な情報を落とさずに聞く力にまだ課題がある。</p> <p>○漢字テストは多くの児童が高い正答率で書くことができる。一方、日常の学習で既習の漢字を活用したり、はねやはらいなど漢字の細かい部分まで丁寧に書いたりする意識は低い。</p>	<p>○相手が伝えたいことや大事な情報を落とさずに聞く力を身につける。</p> <p>○漢字を正しく覚え、正しく読む力を育てる。とめ、はね、はらい、文字のバランスを意識して繰り返し書く力を育てる。</p>	<p>○友達の話や発表内容について、聞く時の観点を示し、何を意識して聞くのかを意識させる。また、互いに発表したことを振り返ることで、聞き取れているのかを確認させる。</p> <p>○普段から文字を丁寧に書くことを指導し、継続して練習に取り組んでいる児童の姿を認め、細かい部分にも目を向けることができるようにする。</p>		
社会	<p>○学習に対する基礎的な知識は概ね身に付いている。しかし、一つの資料から様々なことを読み取り、他の資料と関連させて課題を解決することができるような読み取りには至っていない児童が多い。</p> <p>○学習課題について意欲的に調べようとしている児童が多いも</p>	<p>○資料を目的に応じて効果的に読み取るという力を育て、課題に対して広く深く考察することができるようにする。</p> <p>○食料生産、工業生産、情報産業等への興味・関心を高める。</p>	<p>○資料の読み取りや学習のまとめでわかったこと、気付いたこと、思ったこと等を書かせ、交流させることで互いの気付きや考察を深める。</p> <p>○教科書の資料だけでなく、身近な話題、事象から食料生産、</p>		

	のの、実生活との関連意識が低い。		工業生産、情報産業とのつながりを認識させるような課題を工夫し、学習への興味関心を高める。		
算数	<p>○既習事項の定着に差がある。</p> <p>○問題場面を正しく捉え、立式できる児童が多い。一方、立式した根拠を説明する力に課題が見られる。</p>	<p>○教科書の内容を確実に理解できる児童を育てる。</p> <p>○相手に伝える目的を明確にして、演算決定の根拠を論理的に説明できるようにする。</p>	<p>○習熟度別少人数指導を通して苦手な児童に対して細やかな支援を行う。また、必要に応じて時間外の個別指導や、家庭学習との連携を図る。</p> <p>○問題場面を図や絵、数直線に表現するといった数学的活動を常に取り入れるようにする。また、ペアでの対話活動を通して相手に自分の考えを伝える機会を増やす。</p>		
理科	<p>○実験や観察に興味・関心をもって学習に取り組む児童が多い。</p> <p>○実験方法が変わると、実験の目的やねらいを理解できず、調べたい条件を制御できない児童が多い。</p>	<p>○自ら立てた仮説を検証するための実験方法を考える力を育てる。</p> <p>○実験方法をみて、何を知るための実験なのかを条件に注目しながら読み取る力を育てる。</p>	<p>○児童が学習内容について疑問をもつような実験や資料の提示を行い、自ら立てた仮説を検証するために「何を調べるかを」意識しながら、実験方法を考えるように指導する。</p> <p>○友達の実験方法を見る機会をつくるなど、実験方法をもとに話し合う場面を設ける。</p>		
体育	<p>○用具やゲームの準備は進んでできる児童が多い。しかし、ゲームを通して作戦を工夫したり自己の技能についてふり返ったりすることを苦手としている児童の姿が見られる。</p>	<p>○課題について自ら考え、自己の能力の向上のために工夫ができるようにする。</p>	<p>○チャレンジカードやふり返りカードを作成し、自己の課題についてふり返り、課題を克服しようと工夫する姿を認め、称賛するようにする。</p>		

<p>○マット、ボール運動、水泳等基本的な運動の定着に差が見られる。</p>	<p>○自らめあてをもち、基本的な動きを体得するとともに、運動することを楽しさや喜びを感じる児童を育てる。</p>	<p>○基本的な動きを自ら体得させるために、個々にめあてをもたせるとともに、グループで互いの動きの長所や短所を観察、意見交換させたり相互評価させたりして技能を高め合う。 ○体力テストでは「ソフトボール投げ」の数値が全国平均より低いことから、ボールを力強く投げる場面を増やし、体全体を使った大きなフォームで投げることを意識させる。 ○個々のめあてに合った学習ができているか、様子を観察し、賞賛、励まし、支援等を行う。</p>		
--	---	---	--	--